

東北大学大学院理学研究科 数学専攻

博士前期課程 修士論文

ここに修論タイトルを書く

B8SM1031 村上友哉

2020年1月

目次

第 1 章 序論	1
第 2 章 準備	4
2.1 二次形式	4
参考文献	5

第 1 章

序論

本論文では～～について考察する…

動機は…

本論文で解決したい問題は…

先行研究で行われていることを紹介する…

しかし～～の場合には十分な進展が得られていない。これは～～という困難があるためである…

本論文の主定理は…

定理 1.1. 主定理を書く

この結果を得る上で、上述した困難を～～によって乗り越えた…

今後の課題を挙げる…

本論文の構成を述べる。2 章では…

謝辞

記号

本論文を通して用いる記号を以下に述べる.

- 本論文では, 環といえば単位元を持つ可換環とする.
- $\mathbb{H} := \{\tau = x + y\sqrt{-1} \mid x, y \in \mathbb{R}, y > 0\}$ を複素上半平面とする.

第 2 章

準備

本章では基礎事項の準備を行う.

2.1 二次形式

この節では二次形式の基礎事項を述べる...

補題 2.1. R を環, L を有限生成自由 R 加群, $Q: L \rightarrow R$ を二次形式, $M \subset L$ を部分自由 R 加群であって $\text{rank}_R L = \text{rank}_R M$ なるものとすると, $\det M = d^2 \cdot \det L$ を満たす $d \in R$ が存在する.

証明. L, M の基底に関する Q の行列表示を取ればよい. □

?? 2.1 より...

参考文献